

令和3年度事業報告書

令和3年1月1日～令和3年12月31日

令和3年度事業活動として下記の事業を行った。

1. 日米草の根交流サミット2022 和歌山大会の開催準備
2. ウェビナー「万次郎トレイル 土佐清水～フェア～イブン」の開催
3. 日米草の根「絆」交流2021 日米草の根交流サミットオンライン同窓会の開催
4. ウェビナー「日本の国際文化 茶道から抹茶アイスクリームまで」の開催
5. ウェビナー「Magic of Minka ～古民家の魅力～」の開催
6. 日米草の根交流サミット2023 オハイオ大会の開催準備
7. 2024年以降の日米草の根交流サミット開催準備
8. 広報活動

1. 第30回日米草の根交流サミット2022 和歌山大会開催準備

2020年より続くコロナウイルス感染拡大の影響のため1年延期された第31回日米草の根交流サミット大会2021を第30回サミット大会として2022年に開催すべく、仁坂由伸和歌山県知事、下宏副知事、株式会社宮本工業相談役 宮本次朗氏、和歌山日米協会専務理事 藪添泰弘氏、県庁国際課の協力を得て準備を進めた。依然感染状況の収束時期と渡航制限の解除時期が不透明なため、開催時期の2022年10月以降への変更を申し入れながら県庁国際課及び和歌山県日米協会の協力のもとに以下の通り準備を行った。

開催地：和歌山市および和歌山県全域

開催時期：2022年10月第2週又は第3週

共催団体：和歌山県、CIE-US

オープニング式典：和歌山県立文化会館小ホール

歓迎レセプション：ダイワロイネットホテル和歌山

クロージング式典&フェアウェル・パーティー：田辺市ビッグU

宿泊ホテル：和歌山市内(2泊)、南紀白浜マリオットホテル(1泊)

ローカル・オプション・ツアー：以下の3コースの準備を進めた。

A:「和歌山城・和歌の浦」コース

B:「和歌山古民家・和歌山城」コース

C:「高野山」コース

地域分科会:以下の 9 地域で分科会を開催することとし、準備を進めた。

- － 和歌山市
- － 橋本市(橋本ユネスコ協会)
- － 湯浅町(湯浅町および湯浅国際文化交流協会)
- － 田辺市
- － 白浜町(白浜町および白浜町国際交流協会)
- － 上富田町(上富田町および上富田町国際交流協会)
- － 串本町(南紀国際交流協会)
- － 那智勝浦町
- － 新宮市(新宮市および新宮ユネスコ協会)

参加者募集活動：CIE-US の協力を頂きながら、下記のイベント等を通して和歌山大会への参加者募集のための活動を行った。

- － ウェビナー「万次郎トレイル 土佐清水～フェアヘイブン」
- － 日米草の根「絆」交流 2021 日米草の根交流サミットオンライン同窓会
- － ウェビナー「日本の国際文化 茶道から抹茶アイスクリームまで」
- － ウェビナー「Magic of Minka ～古民家の魅力～」
- － 他 NAJAS や米国団体のオンラインイベント

2. ウェビナー「万次郎トレイル 土佐清水～フェアヘイブン」の開催

1841 年に万次郎たちがホイトフィールド船長たちに救助されてから、今年で 180 年。本来ならば、日米草の根交流サミット 2021 和歌山大会で 180 年の長きにわたる両家の友情とそれを起源とする日米友好を祝うはずであった。代わりに、二人が出会った 180 年後の同時期に高知県土佐清水市とマサチューセッツ州フェアヘイブンをライブでつなぎ、万次郎の故郷土佐清水と第 2 の故郷フェアヘイブンを紹介、さらに万次郎が辿った冒険の軌跡を紹介するウェビナーを開催した。

日米のみならず世界各地から参加した約 300 名は、万次郎の 2 つの故郷へのバーチャル旅行を体験し、万次郎・ジョン万と呼ばれた人物像や冒険中に身につけた「万次郎スピリット」、さらには万次郎が日本にもたらした功績について学んだ。

開催地: オンライン

開催日: 2021 年 5 月 13 日午前 8 時～9 時

共催団体: CIE-US、ホイトフィールド-万次郎友好協会

スピーカー: ジェリー・ルーニー氏 ホイトフィールド-万次郎友好協会会長
ジェイソン・サルディナ氏 土佐清水市職員

3. 日米草の根「絆」交流 2021 日米草の根交流サミット オンライン同窓会の開催

2009 年みやぎ大会、2010 年サンフランシスコ・ベイエリア (SF) 大会が開催され、その直後の東日本大震災から 10 年、そして 1 年遅れのオリンピックが開催された 2021 年、10 年以上にわたる日米草の根交流サミットの絆を確認する同窓会を開催した。日米双方を対象にして同時に参加する「同窓会」、しかもオンラインでの開催は初めての試みであったため、今回は対象者をみやぎ大会と SF 大会のそれぞれの参加者及びスタッフやボランティアとし、日米合わせて 50 人以上の方々が集った。オンライン上で懐かしい顔との再会に嬉しい声上がり、お互いの近況の報告が交わされた。日英の言語の対応、PC や ZOOM の使い方の案内等に苦慮しながらも、コロナ禍だからこそ「懐かしい方達に会いたい」という参加者の皆様の熱意が集まった会となった。

中濱家、ホイットフィールド家、そしてペリー氏が揃い、「草の根交流サミット」と同様、①オープニング②交流③クロージングのスタイルで形成し、万次郎とホイットフィールド船長の出会いから続く 180 年の交流を祝った。交流会では小グループに別れ、かつてのホスト・ゲストや懐かしい方達と直接会話することを楽しむことができた。

また、東日本大震災発生直後、サミット大会で関わった多くの方々が支援のために動いた様子と、その出来事が東京オリンピックにつながるご縁となったことをスライドショーにまとめ紹介し、草の根交流の絆を確認した。

開催地: オンライン

開催日: 2021 年 7 月 22 日午前 9 時～10 時半

共催団体: CIE-US

主な参加者: みやぎ大会・SF 大会の参加者、ホストファミリー、関係スタッフ、他

4. ウェビナー「日本の国際文化 茶道から抹茶アイスクリームまで」

アメリカ人に日本への更なる関心を引き起こすための日本文化紹介の一環として、また 2022 年開催予定の和歌山大会 PR も兼ねて、CIE-US の主導の下、アメリカへ渡った茶道文化や Matcha としてアメリカのポップカルチャーな食文化に浸透したその背景やアメリカのお茶市場について紹介するウェビナーを開催した。

全米及び日本から 100 名以上の参加者が集い、茶道から見る日本の社会形成の歴史など、アメリカ人の視点から奥深いお茶の文化に触れた。

開催地: オンライン

開催日：2021年8月12日午前8時～9時

共催団体：CIE-US

スピーカー：ロナ・ティソン氏 北米伊藤園コーポレートリレーションズ担当副社長

レベッカ・コーベット博士

南カリフォルニア大学東アジア図書館日本研究司書及び共同研究者

5. ウェビナー「Magic of Minka ～古民家の魅力～」

アメリカ人にも大変興味のある日本の古民家について、CIE-US の企画によるウェビナーが開催された。日本の農耕文化と生活スタイルに合わせ、気候や自然と一体化するための暮らしの知恵、そして日本の伝統大工技術が集約された古民家の魅力を紹介した。

世界各国からのアクセスにより 400 名を超える参加者たちは、古民家本来の建築方法、保存のための移築や再建についての知識に触れることで、日本の昔ながらの相互扶助体制のあるコミュニティや「もったいない文化」に共通する SDGs について考える機会となった。

開催地：オンライン

開催日：2021年11月3日午前9時～10時15分

共催団体：CIE-US、ENGAGE ASIA

スピーカー：滝下嘉弘氏 古民家移築建築士

ピーター・グリーリ氏 CIE-US 理事・ボストン日本協会名誉理事

6. 日米草の根交流サミット 2023 オハイオ大会準備

2024 年開催を予定していたオハイオ大会だったが、新型コロナウイルスの影響により、共催団体であるセントラルオハイオ日米協会の予定行事の変更が余儀なくされたため、1 年前倒しでの開催を決定するに至った。海外渡航に制限があるため、オンラインでの会議を定期的に行い、2023 年秋の開催に向け、セントラルオハイオ日米協会の全面的な協力の下以下の通り準備を進めた。

開催地：オハイオ州コロンバス及び周辺地域

開催時期：2023 年 9 月中旬～下旬を予定

共催団体：セントラルオハイオ日米協会、CIE-US

オープニング式典&歓迎レセプション：オハイオ・ステイトハウス

クロージング式典&フェアウェル・パーティー：コロンバス動物園

宿泊ホテル：コロンバス市内

地域分科会：コロンバスを中心に車で 2 時間内の移動可能な地域の 9 か所から賛同を得ている。

7. 2024年以降日米草の根交流サミット大会開催準備

2024年以降の日米草の根交流サミット大会の開催候補地として、CIE-US と全米日米協会の助言をもらいつつ、フィラデルフィア、ハワイ、フロリダ、アラバマの各日米協会及び日米交流関係団体へのアプローチを進めた。また、日本での開催候補地として、札幌、沖縄、長野、新潟、秋田等を視野に入れアプローチを進めた。

8. 情報の発信

- 1) ニュースレター「草の根通信」を年度内に4回制作。
ホームページに掲載するとともに、必要部数を印刷して配付した。
 - 草の根通信 106号(3月)
 - 草の根通信 107号(6月)
 - 草の根通信 108号(9月)
 - 草の根通信 109号(12月)
- 2) 活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)の発行
 - ・ 2021年版発行
- 3) ホームページ、Facebookを通じた発信
大会告知、ニュースレター、ウェブイベントの告知、活動情報等を掲載した。

以上

令和3年(2021年)度事業報告書 附属明細書

令和3年1月1日～令和3年12月31日

特になし。

- 参考資料として以下を配付
 - － 2021年版活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)